

[制作記録]

ビデオ・インスタレーションの制作研究<3>

鈴木浩之

前年に引き続き、ビデオ・プロジェクタを用い、投影する映像と現実空間とのマッチングによる美術表現を研究のテーマとして制作を行いました。

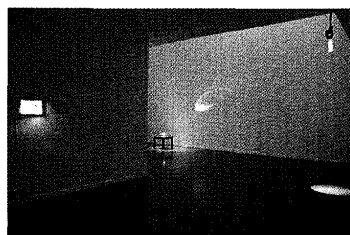
右項の写真は、2006年1月に行われた“ASIANA”展（ムディマ財団／ミラノ市）で発表したビデオ・インスタレーションで、2005年ソウルでの個展で発表した同じタイトルの作品の発想をもとに、手法を変えて制作したものです。仮想の水面の動きを物理計算によってデータ化し、実際の壁に反射光が映ったようなアニメーションを3DCGの技術を用いて作成し、実際に設置したオブジェ（水を入れたガラス器と模型）が背にする壁に向けて投影しています。同展ではこの作品の他、2点の平面作品（ミクスト・メディア）と3点のビデオ・インスタレーションを発表し、近年の研究テーマである「現代の生活空間と絵画の接点」についての考えを具体化しました。

昨年度のもう一つの研究テーマは「展示環境と映像出力の調整精度の向上」でしたが、小型で軽量の映像編集機材を現地に運び、滞在制作を行うことでその課題に取り組みました。結果的に、個々の映像機材の出力特性を確認しながら、展示空間の照明環境と建築物、気候風土にマッチしたビデオ・インスタレーションを展示する事が出来ました。特に作品

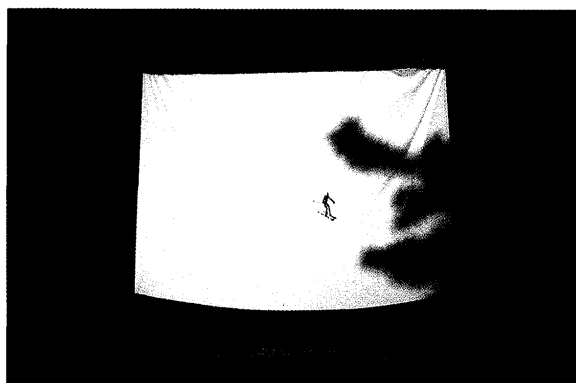
“Wave”では、投影された水の波紋のアニメーションがイタリアの漆喰の壁に馴染むよう、映像の加工と出力機器の調整を現場で繰り返し、会場の広い壁を「映像作品」としてではなく「光のインスタレーション」として提示することが出来ました。美術展企画者であるジーノ・ディ・マッジョ氏からは「絵画的な造形が空間と共鳴した作品」との評価を受けました。

ビデオ・インスタレーションによる美術表現は、三谷研究開発支援財団が今回の研究に助成を行うなど、社会と美術の具体的な接点としての可能性を持っています。今後はこの研究を教育研究の視点で考察し、絵画の専門教育に生かしていきたいと考えています。

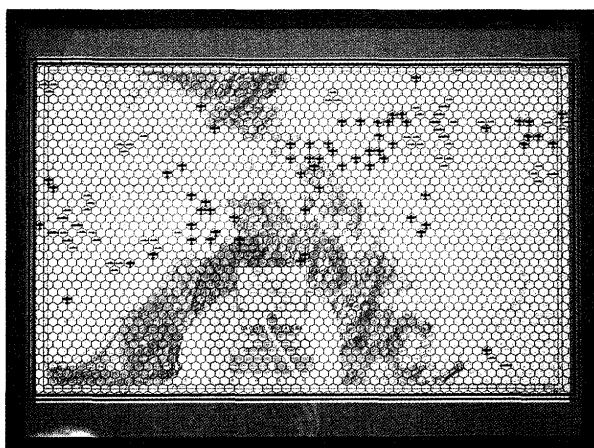
(すずき・ひろし 油画)



“ASIANA”展
2006年1月12日～27日
ムディマ財団
ミラノ / イタリア



“Skie Slope” / ビデオ・インスタレーション / 2006年



“Map” / ミクスト・メディア / 2006年



“Wave” / DVD再生機、液晶プロジェクタ、模型、水 / ムディマ財団（ミラノ／イタリア） / 2006年